

六甲カトリック教会 教会報

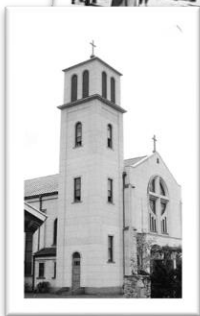


六甲教会の歩みとこれから

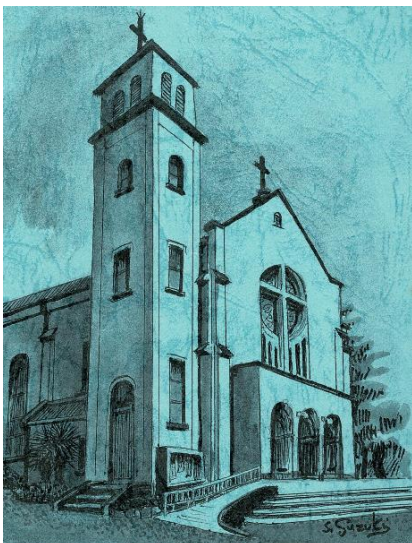


旧聖堂

1954年
聖堂献堂式



1957年鐘楼完成



鈴木進 画 40周年記念冊子より

12月8日は六甲教会創立記念日です。ふとしたことから六甲教会創立50周年記念冊子を読む機会を得ました。1998年(平成10年)に発行されたものです。六甲教会のルーツは1939年(昭和14年)一軒の民家を借りて始まったミサだと言われます。旧聖堂が出来たのが1948年(昭和23年)赤松町の現在の場所です。そして阪神大震災を乗り越えて1995年(平成7年11月に今の聖堂の献堂式が行われています。数えてみると昨年(2019年)は創立80周年だったこととなります。そして今年是新聖堂落成25周年。年月の経つのは早いもの。そうこうしているうちにコロナ騒動に巻き込まれ、未曾有の対策をとらなければならぬ事態となりました。創立80年はいつのまにかスルーしていました。でも創立記念をことさら意識することなく日常の信仰生活を過ごせばそれでよいわけです。コロナが退散すれば次は90周年の記念を祝うこともあるでしょう。100周年はまだまだ遠い先です。

この記念冊子には「これからの教会を語る」というテーマで信徒・司祭の懇談会が開かれ、その要約が載っています。いまから22年前の教会の事情が垣間見えます。二、三紹介しましょう。

「教会は信徒を増やすことに行き詰まっているようにみえるが教会や司祭がやってくれると思ってはダメだ。信徒が自信をもって信仰生活をし、自ら活動することが大切だ」「司祭やシスターも高齢化している。もっと若い人の召命がなければならない」「信徒のうち活動している人はごく少数だ。もっと支える人を広げて行かねばならない」など、いまと変わらない悩みを抱えています。目下「十年後の六甲教会」というビジョンが掲げられています。幾多の社会的条件の困難さに、もうひとつコロナが加わり、前途は不明瞭ですが、あるべき理想の教会像を追求していかなければなりません。2021年が希望の年でありますように。

(編集部)

12月の主日ミサ予定表

日	時	地区 (グループ)
5日(土)	18時	どなたでも
6日(日)	7時半	どなたでも
	10時	第1グループ
	11時半	第2グループ
12日(土)	18時	どなたでも
13日(日)	7時半	どなたでも
	10時	第2グループ
	11時半	第1グループ
19日(土)	18時	どなたでも
20日(日)	7時半	どなたでも
	10時	第1グループ
	11時半	第2グループ
26日(土)	18時	神の母聖マリアミサ
27日(日)	7時半	どなたでも
	10時	第2グループ
	11時半	第1グループ

第1グループ
灘北1・北三田
灘北2・阪神
灘南・神戸西

第2グループ
灘西・中央
東灘北1
東灘北2・芦屋
東灘南

クリスマスのミサ日程

12月24日(木)	15時	整理券が必要です
	16時半	整理券が必要です
	18時	整理券が必要です
	19時半	整理券が必要です
	21時	整理券が必要です
12月25日(金)	7時半	
	10時	第2グループ
	11時半	第1グループ

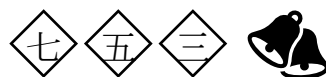


12月24日(木) 早朝ミサは7時です。

12月31日(木) 神の母聖マリアミサ 23時

1月1日(金) 神の母聖マリアミサ 8時半 11時(第1) 12時半(第2)

※ミサの予定表は流動的です。教会からの最新の情報にご注意ください。



11月15日のミサで七五三のお祝いが行われました。ことし七五三を迎える13人のこどもたちはアルフレド神父様からお祝いのことばをいただき、聖家族のおメダイと千歳飴をもらってご満悦でした。ことしはコロナのため、お祝いのパーティーも開かれませんでした。未来に希望をもってこれから歩いてゆくこどもたちに、あたたかい拍手が送られました。



演奏を終えて... 奏者の三人

祈りと音楽のつどい ー光への祈りー

11月8日、今年度初めての「祈りと音楽の集い〜光への祈り〜」を開催しました。コロナ感染防止のため、演奏は当教会オルガン奉仕者のみで、お客様も限られた範囲にとどめました。整理券を発行するという形での開催となりましたが、70人余の方々が来聴されました。11月は死者の月です。死者と私たち自身の人生に想いを重ね、天国の光への祈りを込めて選曲し演奏しました。今年は教会にパイプオルガンが移設されて10年になります。新設された

モニターに移設当初の写真を映し、当時の様子を振り返りました。60分あまりの演奏でしたが、映像と音楽で、豊かな時間を過ごすことが出来ました。皆様に心から感謝いたします。

(音楽チーム 清水真理子)

「祈りと音楽の集い」への想い ◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

11月8日「祈りと音楽の集い」が前回から約9カ月ぶりに開かれた。テーマは「光への祈り」。コロナによる人数制限のため、申し込み制として整理券を配布。それを持つ人のみ入場出来る仕組みだ。奏者は当教会のオルガン奉仕者3人、バッハに始まりバッハで終わる死者の月にふさわしい選曲で、敬虔な「祈り」が伝わってきた。新しく主聖堂の正面に設置されたモニターには、曲目や作曲者名、それにちなんだ美しい映像が映し出された。オルガンや音楽に詳しくなくとも、そこに座れば耳からオルガンの音色、目からモニターの映像という相乗効果で沢山の人がより楽しむことができたのではないかと思う。ことしは「クリスマス音楽の集い」は中止。そして「祈りと音楽の集い」の次回も未定だが、私はその日を楽しみに待ちたいと思う。

(高山教子)



11月8日の「祈りと音楽の集い」に、良き時を過ごさせていただきましたことを深く感謝いたします。またオルガン移設10周年を心からお祝い申し上げます。コロナ禍の中での開催には多くの困難があったことと拝察しますが、大きな節目の年を記念し感謝をささげたいという熱意と和によって、それらをひとつひとつ乗り越えていかれたことと思います。考え抜かれたプログラムがお三方の奏楽者によって各作品に相応しく美しく奏でられる中、様々なことを思いめぐらしました。オルガンは、六甲教会で深く呼吸して血管を通わせ、聖堂の中に入るで最初から存在していたように感じました。人々の祈りと共に過ごした10年の尊さを思い、主の御名をあがめます。これからもオルガンと共に礼拝での讃美が整えられ、神様の賜物である音楽が、人々に慰めを与え世に送り出す大切な働きを担っていきますように、また奏楽者の方々が心身ともに支えられ、聖霊に導かれてご奉仕を続けられますように、心よりお祈りいたします。

(神港教会奏楽者 平田真理)

オルガン設置10周年

主聖堂に備え付けられているパイプオルガンは、日本の著名なパイプオルガン建造家である辻宏氏（1933～2005）によって作られたものです。辻氏はアメリカとオランダでオルガン建造の技術を学ばれた後、1964年に神奈川県でオルガン製造を始められました。このオルガンは1970年に作られたもので、今年で半世紀を迎えます。辻氏の作られた楽器としては比較的初期のもので、8番目のオルガンなのですが、そのためか、オルガンの機構に辻氏の試行錯誤の跡が伺える貴重な楽器でもあります。もともとアメリカのメソジスト教会の流れを組む東梅田教会のために建造されたもので、40年もの長い間教会信徒の礼拝を支え、多くのオルガニストを育ててきました。2010年6月に六甲カトリック教会に移設され、新たな歩みをはじめ、毎週のミサ、結婚式や葬儀にと教会信徒だけでなく



たくさんの人々の心に寄り添っています。移設以来、演奏会を毎年開催し、四十回を数えるまでになりました。今後もますます多くの方に六甲教会のオルガンの響きをお伝えしていきたいと思っています。

（音楽チーム）

感謝 防寒着のお礼

野宿者支援で皆様に防寒着のご寄付をお願いしましたところ、思いもよらずたくさんの防寒着が集まりました。神戸中央教会の社会活動センターへ4回にわたり車で運びました。活動センターのスタッフの方からも六甲教会の皆様に感謝の意をお伝えしてくださいとのことでしたので、この紙面をお借りして心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

（社会活動部）

◆社会活動部の予定

12月2日（水）10時 手芸の集い（第1、第2会議室）

12月12日（土）10時 炊き出し（神戸中央教会 中庭）

ともしび会： 施設の子どもたちへクリスマスケーキを届ける。日時は未定。



2021年1月号から「おみそれしました（仮題）」というコラムを掲載します。信徒のみなさんの中には、信仰生活とはまた別にいろいろな趣味や特技をお持ちの方がおられます。それらを紹介していただくものです。自薦、他薦を問いません。「へえ、あの人が？知らなかった。凄い！」それをきっかけにまた新しい出会いや親睦、分かち合いが生まれるかも知れません。500～600字程度、写真があればなお結構です。広報部へお寄せ下さい。お待ちしております。

（広報部）

墓地っこ便り



11月1日、秋晴れの穏やかな日射しの元、秋の墓参と20名の方の納骨式が行われました。今回は個人墓地を返納され共同墓地への移骨をされた方が14名おられました。墓地委員会で10月初旬に墓地の見回りを致しました折、個人墓地で雑草茂りが目立ちました箇所の写真撮影し、様子をお知らせさせて頂きました。お申込みいただいた方の墓所を有料で草抜き清掃を行いました。初めての試みでした。

この所暫くなりをはひそめていたイノシシの出没が見られるようになり、藤棚の下や個人墓地にも被害が出ております。忌避剤をまくなどの対策をしておりますがうまく避けて掘り起こされております。墓参の折にはお気を付け下さい。

墓地委員会



教会の典礼暦で11月2日は「死者の日」とし、亡くなった全てのキリスト者を記念します。11月が「死者の月」として定着してきたのがいつからなのか定かではありませんが、死者への思いがミサをはじめとする様々な祈りの形で表され、それが広がりを見せ、伝統・習慣となって次第に死者の月になったと考えられます。教会はキリスト教の初期の時代から、死者の記念を深い敬愛の心をもって尊び、死者のための祈願をも捧げてきました。その祈りは、私たちが死者を助けるだけでなく、死者が私たちのために執り成すのを有効にすることができるとのことです。『カトリック教会のカテキズム』(946、



死者の月に寄せて

953、958)を参照

私はいつも実家の教会で参列するため、六甲教会で死者ミサに与るのは初めてです。最初に今年お亡くなりになった信徒の方のお名前が35名読み上げられました。

キリストを信じる者にとって死は人生の終わりではなく、新たな始まりであり、目的である天国への

旅立ちだと信じているからこそ、死を素直に見つめ、悲しみの中にも安らぎを覚えるのかもしれませんが。とは言っても身近な者の死を目前にして、そうした心情になるには時間がかかるかもしれませんよね。

また、前日の11月1日主日ミサ後、秋の墓参がありました。この日納骨されるご家族も大勢おられました(私ごとですが、こちらへ参りますのも初めてです)。

素晴らしい景観のなか、ゆっくりと休まれている故人にご挨拶しました。アルフレド神父様・中村神父様は、皆のお祈りの後、ひとりひとりのお墓にむかって聖水をかけていかれたのが印象に残りました。

(マルガリタマリア M)



👉 施設管理部園芸係よりお知らせ

12月17日(木) 9:30~11:30 春咲きの苗を植え込みます。

ご都合のつく時間だけの方、初心者の方も大歓迎です。ご参加お待ちしております。



みんなの広場

日々のカトリック生活～ロザリオの祈りと私～

聖母マリアへの祈りはたくさんありますが、中でも最も親しまれているのが、「アヴェ、マリア、恵みに満ちた方、主はあなたと共におられます。…」に始まる「アヴェ・マリアの祈り」だと教わりました。

亡き母が大切にしていたロザリオは、玉の数が規則的に5連繰り返されており、首にかけるものではないということは分かりましたが、さて、どのように使うのだろうと思って調べてみると、これは「ロザリオの祈り」のためのものだとなりました。祈り方として、十字架のところから玉を順に手繰っていきながら、まず、「信仰宣言」に始まり「主の祈り」（1回）、「アヴェ・マリアの祈り」（3回）、「栄唱」、「第一の神秘と主の祈り」と進みます。そこから大きな環へと進み、「アヴェ・マリアの祈り」（10回）と終わりに栄唱を一連として、次の一連との間に「第二の神秘・主の祈り」を唱え、第2連も同様にして繰り返す、5連で1環の玉をめぐる。一連ごとに黙想する「神秘」は、マリアやイエスの生涯に秘められた救いの神秘（例：エリザベトを訪問するマリア 等）を短いことばで唱えると良いということでした。

ロザリオはまた、「バラの花冠」を意味します。1回の「アヴェ・マリアの祈り」は一つのばらの花、一環をめぐるうちに唱えた「アヴェ・マリアの祈り」は、聖母マリアに捧げるバラの花冠になるという、美しいイメージが浮かびます。

近年ではフランシスコ教皇が10月の「ロザリオの月」の間、毎日「ロザリオの祈り」を唱えるようカトリック信者に呼びかけたと聞いています。（バチカンニュース、2018年9月29日）。

日々の祈りの生活の中では、まだまだ学び足りない私ですが、背景の歴史を知り、信仰をさらに深め、強めていきたいと考えています。（ベルナデッタ O.）



今月の聖人 12月

☆ 聖ステファノ

12月26日は、殉教者ステファノの記念日とされています。ステファノについては使徒言行録に詳しく記載されています。彼は初代教会のころ十二使徒の執事（事務局員のようなもの）をつとめる七人のうちのひとりでした。ステファノはその実務も堪能でしたが、イエスの教えを熱心に人々に伝え、激しくユダヤの民衆を糾弾し、旧体制との論争にも打ち克つほどでした。そのためユダヤ教の民衆から怒りを買って、石打ちの刑に処せられます。イエス以来最初の殉教者と言われる所以です。ステファノは石を投げつけられながらも「主よ、この罪を彼らに負わせないで下さい」と叫びました。十字架上のイエスの言葉に倣ったのです。ステファノの処刑の場にサウロ（のちのパウロ）が立ち会ったとされ、回心前のパウロのありさまが生々しく浮かび上がります。ステファノの生年は西暦5年頃、没年は35年頃とされています。



◆有難う、お世話になりました

2020年も残すことわずか、瞬く間に過ぎ去った時をふり返りながら恵みの日々を感謝したい。改めて今年のスケジュールを一月まで遡のぼって見直しながら、いろいろの想いに耽っている。新型コロナの影響が、どれほど重く著しかったことか。主の御復活などの教会行事、人々の自由な往来、数多くの祝いや弔いの重要事、楽しみにしていた集まりや旅行など、中止や断念や縮小の数々。私個人では、イエズス会入会や司祭叙階の大きな節目の年でもあった。しかしまさに目に見えないウィルスの急襲に全世界は震え上がり、すっかりチヂコマッテしまった。連日マスコミは競って書き立て、恐れや不安は人から人へと容易に伝染し、同調の圧力がいたずらに強まり、現代人がいかにバランスを欠いた不健康な生活を送り、自分の健康に自信がないかが端的に示された。しかしマイナスばかりではない。大いに読書に親しみ、独りで歩きつつ季節の移り変わりを発見し、ヨーガで呼吸を整えて身体の声に耳を傾け、また病禍の終息のキザシが皆無の中でも一切の思い煩いを捨てる勇気の恵みを戴いた。家に居る時間が長くなったお蔭で、断捨離に励んだ人もいる。キリスト者として、今こそ実行できることも数多くあるのではないか。

この六甲教会で、新たに始まった一つのささやかな取り組みも注目される。それは8月以来の初金ミサ後の聖体礼拝・聖時間である。大昔のブラウン神父時代には毎日曜の午後3時から、しかし近年ではイエズスの聖心の祝日にのみ行われていた。聖体は何よりも食べる「糧」であり、畏れかし

こむ「崇敬」の対象ではないということから、近年では聖体を顕示して礼拝する儀式は、稀になったかもしれない。年配の信徒の方々は、荘厳な聖体行列の華々しさを懐かしく思い出されよう。それならばこそイエスはかつて今も、自分の身体を霊と肉とのイノチ・糧として惜しみなく人々に分け与えている。また私たちキリスト者はこの聖なる糧を日々新たに頂き、イエスの手と足になって、またイエスの口と目と耳となって救いの喜びを証しする使命を戴いている。今も生きて働くイエスの聖体の前に心をひそめ、イエスの心と歩みとを黙想し、私ならではの招きや求めに応えたいと思う。コロナ禍の中で右往左往してただ恐怖に駆られる人々のために、行き詰まってただ傷つけ合うばかりの夫婦のために、生活（せいろ）に窮乏し餓死する子供たちのために、必死に働く貧しい外国人労働者のために、神を探し求めつつ生路に迷う人々のために。大いに祈り求める使命が特にあるのでは。聖体の前でイエスの救いの御業を思いめぐらし、聖なる礼拝の時を共に過ごし、一緒に声を合わせて神を讃美し、私たちの切なる願いを分かち合うことなどなど。大いに有志を募ります。

またこの一年に、旅立たれたすべての死者のために祈ります。また私の生活を、蔭で支え導いてくださった多くは無名の恩人の方々にお礼を申し上げ、また眼も心も昏い至らない我が身をお許してください。

「全能の神よ、戴いたすべての出会い・関わり・出来事をあなたの恵みとして感謝してお受けいたします。あなたの御旨が行われますように。」
中村健三 合掌

【 2020 年 12 月 予定表 】

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
				日本宣教の保護者聖フランシスコ・ザビエル司祭	初金曜日ミサ 7:00 10:00 聖体顕示	教会大掃除 9:00 地区役員会⑤大掃除後
6	7	8	9	10	11	12
待降節第 2 主日 宣教地召命促進の日 (献金) 小教区評議会 13:00 初聖体 11:30		無原罪の聖マリアミサ 7:00 10:30 六甲教会創立記念日 ロザリオの祈り 10:00				社会活動部炊き出し
13	14	15	16	17	18	19
待降節第 3 主日					◎灘北 2・阪神	
20	21	22	23	24	25	26
待降節第 4 主日					主の降誕 ◎灘南・神戸西	聖ステファノ殉教者
27	28	29	30	31		
聖家族	幼子殉教者		教会受付年末休み(～31日)	神の母聖マリアミサ 23:00		

◎は掃除当番地区です

教会大掃除 12月5日(土曜日) 9時より教会大掃除を実施いたします。
外溝、落葉清掃を中心に行います。皆様のご協力をお願いいたします。



<p>次回1月号の発行は、12月26日(土)です。</p> <p>原稿は毎月15日ごろまでに教会受付へ直接ご持参いただくか、FAX やメールでお願いいたします。皆様からの原稿をおまちしております。あわせてご意見もお寄せください。(広報部)</p> <p>http://www.rokko-catholic.jp</p>	<p>六甲カトリック教会</p> <p>〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21</p> <p>電 話 078-851-2846</p> <p>F A X 078-851-9023</p> <p>E - メール renraku@rokko-catholic.jp</p> <p>発行責任者 アルフレド・セゴビア</p> <p>編 集 広 報 部</p>
--	---